群教セ	G02 － 03
	令 2.275 集
	社会－中

資料から読み取った事柄を根拠として、自らの考え表現し合い考えを深めることができる生徒の育成

――三角ロジック（トゥールミンモデル）の活用を通して――

特別研修員　小幡　吉則

Ⅰ　研究テーマ設定の理由

はばたく群馬の指導プランには、群馬県の社会科の課題として、「資料から情報を読み取り活用すること」とあり、資料活用能力を高める指導の充実が求められている。本校生徒の実態からも、資料から読み取った情報を関連付けて考えたり、類推して考えたりすることが苦手といった課題がある。資料のどこに着目すればよいか分からないという生徒や課題が難しいとすぐに諦めてしまう生徒がいることも課題となっている。

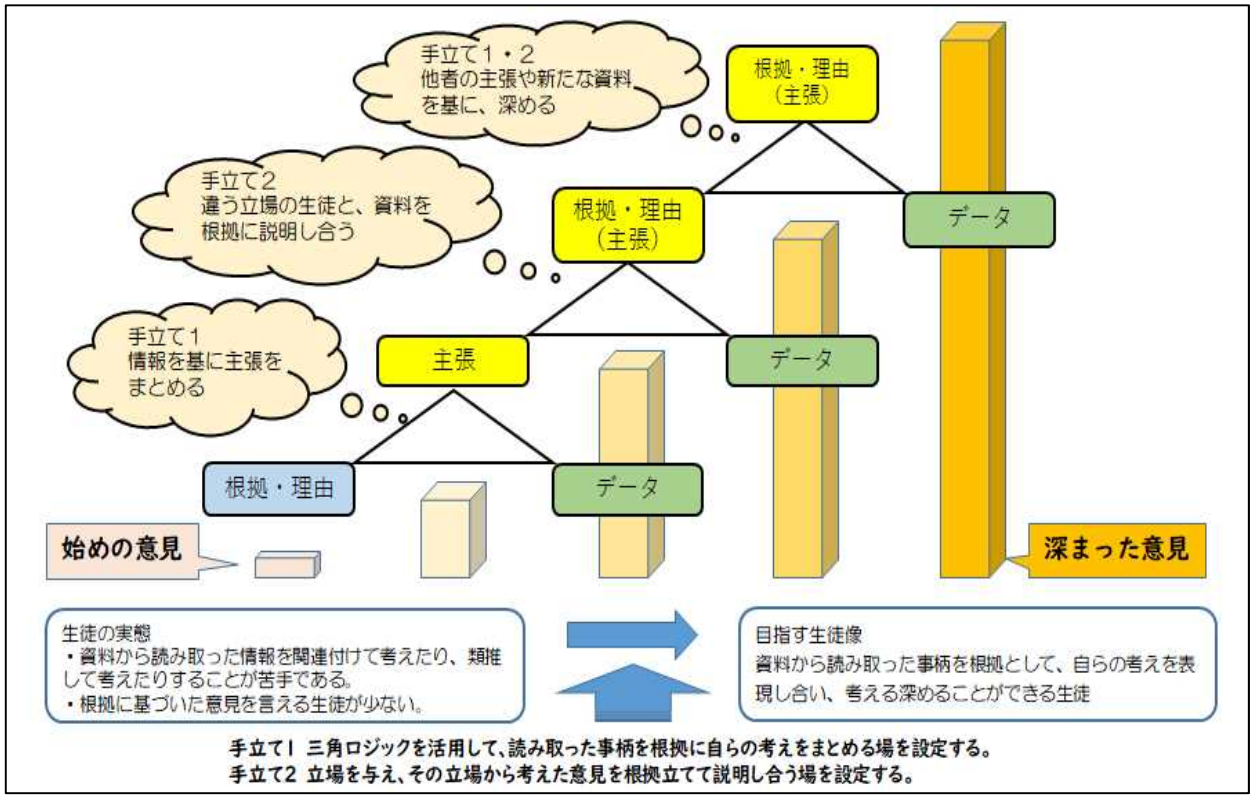
資料においても扱う資料が多かったり、読み取らせたいこと、気付かせたいことなどが整理されていなかったりするため、課題の把握が難しくなってしまうことがある。また、資料から読み取った事柄を他者と交流する機会は設けていても、自分で気付いたことや感じたことなどを交流するのみで、明確な根拠に基づいた意見交流が難しく、深まりがなく、新しい視点に気付き、考えを深める授業になっていないと考えた。

そこで、課題に関係が深いと考えられる人々の立場を生徒一人一人に与え、多様な観点を含む資料を読み取る活動の中で、思考ツールである三角ロジック（トゥールミンモデル）を活用することで、資料を読む視点を明確にし、また、読み取った資料を根拠として、自らの意見を構築し、表現し合う活動を設定する。表現し合う中で、他者の意見を更に根拠とし、新しい視点に気付き、考えを深めるための授業改善を行う。

以上のことから、協働的な活動を通して新しい視点を意識できることを重視し、上記のとおりテーマを設定した。

Ⅱ　研究内容

1　研究構想図



２　授業改善に向けた手立て

手立て１　三角ロジックを活用して、読み取った事柄を根拠に、自らの考えをまとめる場を設定する。
手立て２　立場を与え、その立場から考えた意見を根拠立てて説明し合う場を設定する。

手立て１の活動では、図１のような三角ロジックという思考ツールを用いて、資料から読み取った情報を整理し、自分の主張を考え、発表に生かす活動を取り入れた。

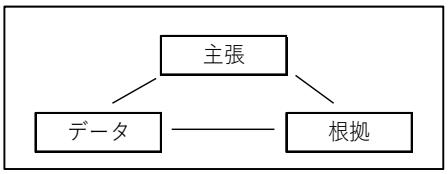


図１　三角ロジックの形式

まず授業で扱う資料を読み、自分の主張を考えさせる。そして、その資料から自分の主張に関連するデータや事実を読み取り、データの枠の中に読み取った情報を書き込む。資料を読む際には、自分の主張と関連すると思われる個所に線を引かせ、自分がどこに着目しているか視覚的に捉えられるようにした。最後に、読み取った情報を基にして、自分の主張の根拠や理由となる事柄を書き込む。この一連の思考の流れを視覚化していくというものである。

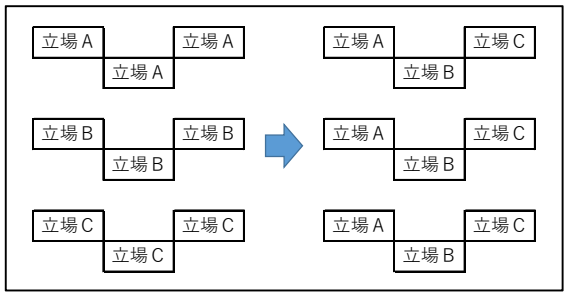


図２　グループ編成の仕方

手立て２は、課題に対して多面的な見方ができる資料を用意し、多角的に捉えるために図２にあるような二段階の活動を行った。まず、３～４人グループをつくり、そのグループ内で生徒一人一人に立場をもたせた。そして、自分が担う立場の視点から資料を読ませ、自分の考えをまとめさせた。立場については、扱う課題によってその課題に関わりが深いと考えられる立場を教師側が設定し、立場の数に合わせて３～４人でグループを構成した。次に、自分の立場とは違う立場の生徒とともに構成されたグループを作り、そこで意見を交流させる。そうすることで、他の立場の生徒の意見と、自分の意見との相違点に気付き、立場によって意見が違うことに気付いたり、多様な視点があることに気付いたりすることができると考える。

Ⅲ　研究のまとめ

１　成果

○　全ての生徒が、三角ロジックを用いて、資料などから読み取った事柄を根拠にして自分の考えをまとめることができた。三角ロジックに考えの根拠となるデータ、そこから分かる根拠を書くことで、自分の考えが何を基にして考えられたものかを生徒自身も視覚的に捉えることができ、最終的に考えをまとめる際に、具体的な根拠を伴った主張としてまとめることができた。

○　三角ロジックを用いて自分の考えをまとめる活動を繰り返し行っていく中で、資料を読み取る視点がはっきりし、迷うことが少なくなってきた。

○　立場をもたせ、与えられた立場の視点で物事について考えることで、多様な視点に気付き、考えを深めることができた。

○　立場をもたせ、同じ立場の生徒同士で意見交流をし、友達の意見と自分の意見とを比較し、相違点などを考えることで、自分の考えを深めることができた。また、次に行った他の立場との意見交流では、自信をもって自分の意見を発表することができた。

○　同じ立場同士の意見交流の後に、他の立場の生徒との意見交流を行うことで、違う立場からの意見に触れ、更に自分の考えを深めることができた。また、他の立場からの考えを三角ロジックのデータとして扱うことで、更に深まった自分の考えを書くことができた生徒もいた。

２　課題

○　全ての生徒に同じ資料を提示し、立場を変えて資料を読ませたが、意見の深まりが見られない生徒もいた。それぞれの立場に合わせて、別々の資料の提示が必要である。

○　立場をもたせ、その立場の意見を考えるためには、立場の理解が必要であり、それが不十分になってしまうことがあった。既習事項と関連付け、無理なく実践できるように工夫する必要がある。

実践例

１　単元名　「地方自治と私たち」（第３学年・２学期）

２　本単元について

本単元は、地方自治や地方財政の仕組み、地域住民の生活との結び付きなどについて具体的な事例や身近なできごとなどを基にして捉え、より身近な政治の場として地方公共団体の政治には、どのような工夫があるかについて考える。また、政治に関心をもち、自ら積極的に働きかけていくことの大切さに気付き、どのようなことができるかについて考える。導入の場面では、身近な課題についてどのような解決方法が考えられるかを自分なりに考え、疑問や課題意識をもたせたい。その上で、教科書や資料集を基にして、住民に認められている権利や、それを保障するために設けられている制度について確認していく。基礎・基本となる事項を理解させた上で、導入の場面で扱った課題について考えさせる。その際に、実際にあったいくつかの事例を参考にしたり、友達との意見交流をしたりする中で、考えを深めさせたい。考える際には三角ロジックを活用し、根拠をもって意見がまとめられるよう配慮する。そうした中で、漠然と自分の意見をもつだけでなく、資料やグラフなどを根拠として意見をまとめ、実際の生活や地域の状況などに即した考えがもてるようにしたい。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	三角ロジックを用いて、資料を基に根拠をもって自分の意見を言う活動を通して次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　地方公共団体の政治と国の政治との相違点や、住民の権利や義務について理解する。（知識及び技能） イ　地方公共団体の政治の仕組みや地方財政、住民の権利や政治参加の方法などについて多面的・多角的に考察、構想し、表現する。（思考力、判断力、表現力等） ウ　地方公共団体の政治や住民の権利などについて関心をもち、政治参加の方法や課題解決の方法について意欲的に調べたり、意見を出し合い考えを深め合ったりしようとする。（学びに向かう力、人間性等）
評価規準	(1) 地方公共団体の政治と国の政治との相違点や、住民の権利や義務について理解している。 (2) 地方公共団体の政治の仕組みや地方財政、住民の権利や政治参加の方法などについて多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 (3) 地方公共団体の政治や住民の権利などについて関心をもち、政治参加の方法や課題解決の方法について意欲的に調べたり、意見を出し合い、考えを深め合ったりしている。

過程	時間	主な学習活動
つかむ	第１時	・自分たちの住む市の行政についての資料から、地方公共団体の政治の特色について話し合わせることを通して、地方公共団体の政治が住民生活に密接に関わっていることを理解させる。
追究する	第２時	・地方公共団体の政治の仕組みについて、国の政治の仕組みと比較する活動を通して、地方公共団体と国の政治の仕組みとの相違点を理解させる。
	第３時	・自分たちの住む市の予算や人口の推移を表した資料から、地方財政の仕組みや税収と人口との関連などについて話し合う活動を通して、地方財政が抱える課題について理解させる。
	第４時	・実際に行われた住民の政治参加についての資料を読み、自分たちの地域に置き換え、地域が抱える課題やどのような政治参加が考えられるかなどについて話し合う活動を通して、自分なりの意見をもち、地域に関わろうとする意欲をもたせる。

まとめる	第５時	・生徒が考えた自分たちの住む町への提言について、一つの班の提言を例に、「農家・地域住民・地方公共団体」の三者の視点から改善策について意見を出し合い、考えを深める。
	第６時	・各グループが発表した「自分たちの住む町への提言」について、有効度、実現可能性の面から評価し合い、出された意見を基に提言を練り直すことを通して、多面的・多角的に自分たちの住む町が抱える課題について捉えることの大切さに気付き、政治が様々な面に配慮して行われていることを理解させる。

３　本時及び具体化した手立てについて

本時は全６時間計画の第５時に当たる。これまでに地方自治の仕組みや地方財政、政治への住民参加など、地方自治に関わる基本的な事項を学んできた。教科書で扱う内容以外に、実際に自分たちの住む市の様子について、市から出されている資料を基に学習した。また、総合的な学習の時間に生徒がこれまで考えてきた「自分たちの住む町への提言」と関連付けて学習した。

本時では、生徒が考えた「自分たちの住む町への提言」について中学生としての視点ではなく、「農家・地域住民・地方公共団体」の視点に立って見直す活動を設定した。資料を読む際には、三角ロジックを用いて、資料を根拠として自分の考えをまとめることとした。また、意見交流の際には生徒に「農家・地域住民・地方公共団体」の三つの立場を与え、与えられた立場に立って意見を発表し合う活動を取り入れた。最初は同じ立場の生徒同士で意見を交流し合い、次に他の立場の生徒と意見交流を行う二段階の形で意見交流を行った。

これらの活動を通して、どの生徒も資料から読み取ったことを根拠として自分の考えをまとめ、発表し合い、意見を深めることができた。

手立て１　三角ロジックを活用して、読み取った事柄を根拠に、自分の考えをまとめる場を設定する。
手立て２　立場を与え、その立場から考えた意見を根拠立てて説明し合う場を設定する。

４　授業の実際

導入では、生徒が考えた「自分たちの住む町への提言」について前時の発表を簡単に整理し、振り返る活動を設定した。また、本時のめあてである「自分たちの住む町への提言について、違う立場から意見を出し合い、よりよい提言にしよう」を提示し、授業の流れを簡単に説明した。

(1)　三角ロジックを活用して、読み取った事柄を根拠に、自分の考えをまとめる活動

資料として、以前から使用してきたもので、生徒が班別で作成した「自分たちの住む町への提言」、自分たちの住む市の予算案、市議会だより、市総合計画後期基本計画概要版を引き続き活用し、新たに担任による自作資料を用意した。これらの資料を根拠として自分の考えをまとめる活動を行った。資料を読み取る際には、読み取った情報を自分の考えの根拠にするために、三角ロジックを取り入れた。

図１　資料読み、根拠を考える様子

まず、資料を読み自分の主張をワークシートの主張の欄に記入させる。次に、自分の主張に関連することを資料から探し、その部分に線を引かせ、資料のどの部分が自分の主張と関連しているのか視覚的に捉えられるようにした。それらをまとめ、三角ロジックのデータの欄に記入させる。最後に、そのデータを基に根拠を考えさせ、自分の主張を漠然としたものでなく、根拠に基づく主張になるようにした。それぞれに欄を設け、普段頭の中で無意識に行っている思考の流れを視覚化することで、考えを整理し、資料の読み取りが苦手な生徒も自分の考えを根拠付けて書くことができた。

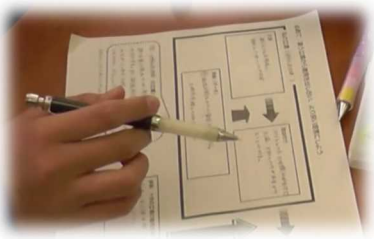


図２　自分の意見をまとめる様子

また、本授業では意見交流をさせ、より意見を深めさせるために、他者の意見を新たなデータ・根拠として活用する二段階の三角ロジックとした。三角ロジックを用いて二段階の思考を重ねたことにより他者の意見を踏まえ、更に意見を深め、最初に自分で考えた意見からの変容が見られた生徒が多かった。

(2)　立場を与え、その立場から考えた意見を根拠立てて説明し合う活動

資料から情報を読み取る際に、学級の中で三人グループを編成し、そのグループ内で「農家・地域住民・地方公共団体」の立場を決めさせ、その立場に立って意見交流を行った。この活動はまず同じ立場の生徒同士でグループを構成し、そこで意見を交流し合い、さらに別々の立場の生徒で構成されたグループに戻り、意見交流をし合う二段階の形式で行った。

図３　意見交流をする様子

同じ立場の生徒で構成されたグループでの意見交流を設定することで、発表が苦手な生徒も次に行った別々の立場の生徒で構成されたグループでの発表において、自信をもって発表することができた。また、それぞれが考えた意見に相違点があり、他者の意見を参考にしながら、自分の意見を補強して発表する姿も見られた。

別々の立場の生徒と意見を交流する場面では、新たな視点が入ることで、自分の考えの変容が見られた生徒が多かった。また、立場が違うことにより、自然と質問し合ったり、対立する意見に対してどう折り合いを付けるか改善策を考えたりする姿が見られた。こうした活動を通して、様々な視点で考えることの大切さに気付けた生徒が多数いたと感じる。

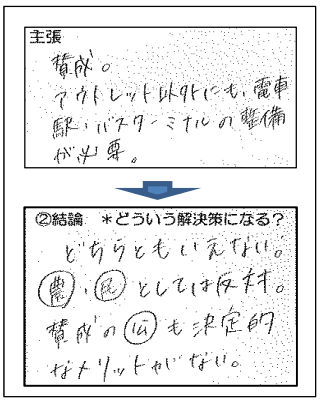


図４　意見の変容が見られる記述

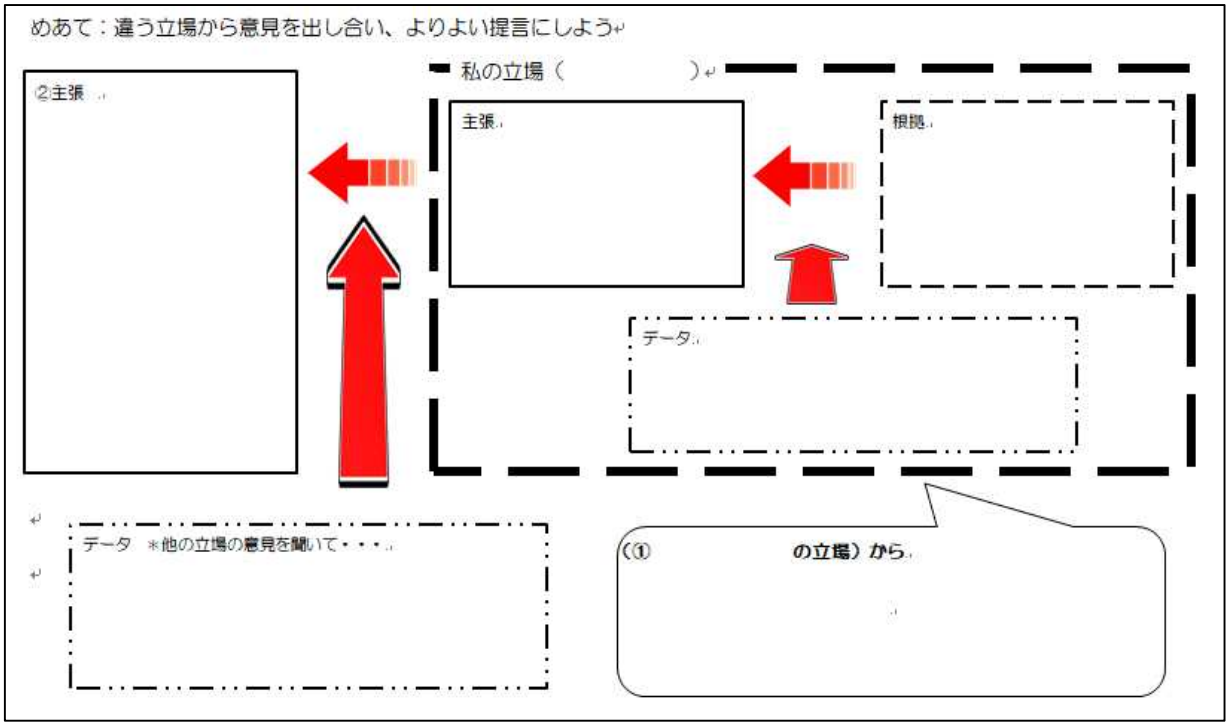
５　考察

手立て１を用いた活動では、全ての生徒が資料を根拠にして自分の考えを書くことができた。三角ロジックを用いることで、思考の流れを視覚化でき、普段なかなか考えが書けない生徒や、書けても考えの根拠がはっきりしない生徒にとっても、資料を根拠にして考えがまとめられたことは、有効な手立てであったと考えられる。しかし、根拠とする資料について、数種類の資料を提示したが、一つの資料のみを根拠として考える生徒と複数の資料を関連付けて根拠にして考える生徒がいて、主張の内容の深さにも差が出ていた。これは、資料が多岐にわたり、苦手意識をもっている生徒にとっては読み取りにくいものになってしまっていたことが考えられる。また、本実践では立場を与えてその立場に立って資料を読み、考えをまとめさせたが、立場ごとに資料を変えて提示した方がより考えが深まったのではないかと感じた。

今回は三角ロジックを二段階にし、自分の考えを更に深められるような工夫をした。一度自分の考えを三角ロジックでまとめ、次に話し合いによって得られた他者の考えをデータ・根拠として用いて、更に三角ロジックを構成する形をとった。二つ目の三角ロジックについては、考えに深まりが見られる生徒と、一つ目の三角ロジックとほとんど変化のない生徒がいた。これについては、今回初めて取り入れた工夫であることで、生徒が慣れていなかったことや一つ目の三角ロジックで自分の考えを明らかにしていることで、そこで思考を止めてしまったことが考えられる。今後、この部分に関しては授業の中で繰り返し取り入れ、更に考えが深められるものにしていきたい。

手立て２を用いた活動では、まず同じ立場の生徒同士でグループ活動を行った。その際、活発に意見交流が行われ多様な意見が出された。しかし、その立場について詳細な情報を理解しているわけではないため、内容の深まりに課題が残った。資料提示を工夫し、よりその立場に立った具体的な内容の意見交流にする必要があると感じた。今回は、「農家・地域住民・地方公共団体」のどの立場にも同じ資料を提示したが、それぞれの立場に合わせ、より具体性のある資料を提示することで、その立場の人々の思いや、生活への影響など意見交流がより具体的なものになったように思う。他の立場の生徒との意見交流においては、それぞれ別々の視点からの意見を聞くことで、同じ立場同士の話し合いでは気付けなかった視点に気付くことができた。この活動を取り入れることで、考えが大きく変わった生徒もいて、多様な視点に立って物事について考えるきっかけになったと考える。

６　資料


めあて：違う立場から意見を出し合い、よりよい提言にしよう
私の立場（　　）
②主張
主張
根拠
データ
データ　＊他の立場の意見を聞いて・・・
（①　　の立場）から